

Info&Report 編 特別支援教育研修会

6月30日(金)、特別支援教育研修会を行いました。

今年度は、特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター、通級担当の先生方、合わせて27名に集まっていただきました。

東部教育事務所の特別支援教育指導員よりまず前半は、個別の教育支援計画の作成と活用についてお話しいただきました。

個別の支援計画と指導計画。似た名前のため混同することもあるのですが、長期目標の設定に違いがあるなど、支援計画があってそれをふまえて細かに指導するための指導計画であることを改めて確認しました。また、支援計画を新学年・進学先に引き継いでいくこと、保護者との連携や学習支援に活用していくことなどもお話しいただきました。

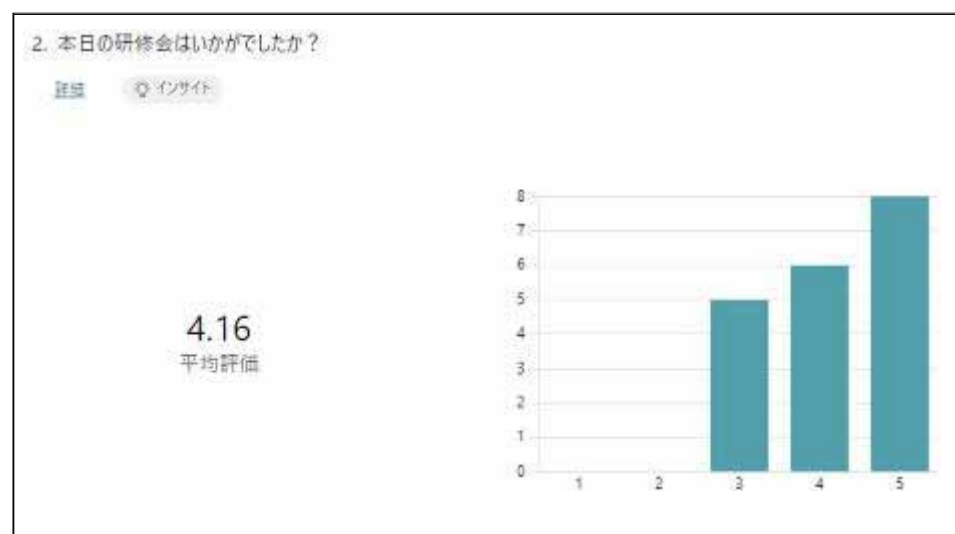
次に、グループに分かれて、支援を必要とする子供への対応について、2つの事例への支援策を話し合いました。

児童への声かけそのものが刺激であり、言葉が持つ力に気を付けることや、言っても言ってもやらないことが繰り返されると「負の強化」となってしまうことなど、グループ内で話し合うことで、これまでの行ってきた支援方法についてふり返り、改善点に気付くことができる研修会となりました。

滑川市には、特別支援教育に長年携わってこられた先生、指導力のある先生がたくさんおられます。今、普通級の中で、気になる児童生徒への支援の仕方で悩んでいる先生は、各校の特別支援担当の先生方にまず相談してみてもいかがでしょうか。ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育といった観点からもよりよいアドバイスをいただけたらと思います。



<研修会後のアンケートより>



感想

具体的な指導例が示されていたところがよかった。
実態把握の大切さを改めて感じました。ありがとうございました。
子供へ「声を掛ける」ということが、子供たちにとって刺激になるということを知り、指導の際に気を付けていきたいと思いました。ありがとうございました。
今のメンバーなら、本研修会は必要ない。本当に研修が必要なのは、通常級の担任でしょう。希望者の参加では、誰も参加しないのではないかと。
どんな関わり方が適切なのかを違った視点で考えることができよかったです。ありがとうございました。
指導計画と支援計画の違いについて話を聞くことができ、とても有難かったです。
支援教育に関わる先生が集まり話し合う機会はとても良いと感じました
環境を整えるといったことではなく、教師の接し方を考えるという少し踏み込んだ内容が、たいへん勉強になりました。
あまり必要ではないとした理由は、支援級・通級担任は十分理解をしているべき内容だったからです。つまり、研修対象を「普通級低中高担任から一人、及び支援級・通級の中で最も年次の浅い者一人」等とすべきだと思います。研修会自体は、行われるべき内容です。
講師のお話は毎回分かりやすく、新たな発見や、自分の研修不足が分かるので何回でも聞きたいです。(例えば今回は、個別の教育支援計画と個別の指導計画の「長期目標は明確に異なる」ものだと分かったことが勉強になりました。また、児童理解の大切さを聞き、支援委員会に上がる児童「全員の」普通級での様子を見ていないことを特別支援コーディネーターとして大変恥ずかしく思いました。時間を作り、校内・各教室をもっと巡回したいと思います。
次回の研修内容の予告で「外国人転入生等」と聞きました。勉強になるのももちろん参加しますが、研修対象は「支援級担任全員」が適当でしょうか。「特支コーディネーター一人、及び外国人児童が在籍する普通級担任」等の方がより効果的な気がします。
今年度初めて特別支援学級の担任となった自分にとっては、大変ありがたい研修でした。特に、後半の事例研修は、自分の行っている指導を振り返る貴重な時間になったと共に、対応する際にどんなことに配慮する必要があるのかを分かりやすく説明していただき、助かりました。できそうなことから取り組んでいきたいと思っています。

グループでの話し合いは、少しやりにくかったです。でも、ワークの後の講師のお話が具体的で大変分かりやすく、今後色々な児童への対応に役立てたいと思いました。教育支援計画、指導計画についても詳しく説明してくださり、確認できたことが良かったです。

個別の教育支援計画と個別の指導計画の目標の立て方について、とても参考になりました。また、特別な支援が必要は子供への対応についても、留意すべき点を具体的に教えていただけて、とても参考になりました。

事例を基に、支援や関わりの在り方について考えることができました。またグループ協議では、中学校の先生方とも意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができました。今日の学びを今後に生かしていきたいです。

昨日はありがとうございました。個別の支援計画や指導計画について、あらためて学ぶことができ、自分の中できちんと整理することができました。今回の研修で、特に印象に残ったキーワードが「児童理解」「ぶれない気持ちと覚悟」です。自分の心にゆとりがないときは特に、想像力が足りなかったり、表面的な行動しか見ることができていなかったり、こちらの都合で声掛けしたりしていることがあるな…とハッとさせられました。今回学んだことを大切にして、子供達と関わっていきたいと思います。

具体的な事例を通して、在籍児童が納得できるルールや約束を決めて、見通しのある学校生活が送れるように支援することが大切だと思いました。

今回の内容であれば、対象を通常級の担任、もしくは特別支援学級の経験の少ない方にした方がよかったかもしれません。

個別の教育支援計画作成の注意点が分かってよかった。

内容が、通常級の個別支援についてだったので、各校の事例を各校の通常級担任に紹介してもらい、担任以外の立場の人とグループ協議してもよかったのではないかと。(対象児童の特性も詳しく聞くことができるので、より適切な支援が見つかるかもしれない)ただし、その場合は、各校の困っている通常級担任を悉皆にする必要があるが…。アンケート提出は、提出期限にもう少し余裕をもたせてほしい。

同じグループに中学校の先生がおられて、大変勉強になりました。ただ、講師のお話が前日の学校訪問研でお聞きしたような内容だったので、「学校訪問研はいらないのでは?」と思いました。